

かめのりコミュニティ THE KAMENORI COMMUNITY

公益財団法人 かめのり財団は
日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて
未来にわたって各国との友好関係と
相互理解を促進するとともに その架け橋となる
グローバル・リーダーの育成を目的に
事業を行っています

今号の内容

大学院留学アジア奨学生
新奨学生の紹介・修了生からのことば
第14回かめのり賞 募集案内

No. 34
JUL. 2020

公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

大学院留学アジア奨学生

今年も新たに3名のかめのり財団奨学生が決定いたしました。それぞれ法学、社会福祉学、経済学の分野で活躍が期待される中国からの留学生です。また、4名の奨学生が本年3月で修了しました。4名とも引き続き所属大学にて、博士論文の完成に向けて研究活動を行っています。今号では、この7名の奨学生からのメッセージを掲載いたします。

本年3月に予定されていた奨学生証書授与式は、新型コロナウイルス感染症拡大予防の影響により残念ながら延期となりました。状況の改善を待ち、改めて一堂に集う機会を持つ予定です。



かめのりフォーラム 2020の様子

新奨学生の紹介



苗 静茹
(ミョウ セイユ)
中国
東京大学 法学政治学研究所
総合法政専攻 (博士前期)

私は商法を専攻しており、研究テーマは「船荷証券の電子化をめぐる法的諸問題」です。近年、海上輸送の輸送時間が短縮され、船荷証券が買主の手元に届くよりも、貨物が先に目的港へ到達し、貨物を引き渡せない事態が起こるようになりました。この船荷証券の危機に対応するために、電子式船荷証券のシステムを構築することが考えられます。また、現在、国際貿易の実務においてブロックチェーン技術を活用することにより、船荷証券の危機を解決することが期待されます。したがって、電子化する過程における物権の移転などの理論問題を検討しながら、ブロックチェーン技術に関する実証研究も行うことを通じて電子式船荷証券の法体系の構築に力を添えることを目指しております。

この度、貴財団の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。私は留学生として異文化の人々との相互理解の重要性を深く感じられ、かめのり財団が掲げる目標のように各国が経済的な交流だけでなく、文化的な友好交流も進展できるよう心から望んでいます。したがって、かめのりファミリーの一員になれるのは大変幸運だと思っております。今後学問に打ち込むとともに、かめのり財団の理念がさらに多くの人々に伝わるよう力を尽くしていきたいと思っております。最後になりますが、かめのり奨学金に携わる皆様に重ねてお礼を申し上げます。誠にありがとうございます。これからどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



孫 心悦
(ソン シンエツ)
中国
同志社大学 社会学研究科
社会福祉学専攻 (博士後期)

初めまして。孫心悦と申します。中国上海出身です。大学は、中国の大学で、電気工学を専攻していましたが、人と人の関わりを大切にする社会福祉に興味をもって、現在は、同志社大学で、社会福祉学を専攻し、高齢化社会における課題に取り組んでいます。

研究テーマは、「中国都市部における社区居宅養老サービスの利用促進に関する研究」です。この社区居宅養老サービスは日本の在宅サービスを指します。日本の高齢化の進行を上回る中国の高齢化問題に対して、中国の在宅サービスに焦点をあて、とりわけ、既存のサービスの利用率が低いという課題を解決したいと考えています。具体的には、介護保険制度等の政策により、急速に発展、定着してきた日本の在宅サービス事業の政策や取り組み等を参考にし、中国の在宅サービス事業の普及を促進させ、年老いても誰もが安心して暮らすことのできる高齢者社会の実現に貢献したいと思ひます。

改めまして、この度、かめのり財団の奨学生として採用、支援をしていただき、誠にありがとうございます。これから、かめのり財団に設けていただいた異文化交流の場を通して、社会福祉の理念や価値について、他の留学生と意見交換ができればと思っています。日本での経験と学びを中国に生かすだけではなく、中国の高齢者ケアの発信者としての役割も果たし、各国間の相互理解を促進したいです。さらに、それを通して、若者世代の高齢化社会への見方を変えて、今後、ポジティブな高齢者社会の実現に向けて、若者世代と一緒に創り上げていきたいと思っています。



宜 鯤
(ギ コン)
中国
京都大学
経済学研究科 (博士後期)

私は計量経済学を専攻しており、「時空間統計の計量経済分析」を研究テーマとして研究を行っています。今の時代、地球温暖化、オゾン層の減少などの環境問題は深刻化しており、放射能汚染、感染性疾患の伝播などの人災は人々の生活に影響しています。一方、グローバリゼーションと経済活動の国際化にしたがい、一地域の経済変動が全世界に及ぼす影響が顕著になりました。このような背景により、グローバルな視点から経済活動や環境変動に内在する時空間的変動メカニズムを解明することの重要性は十分に示されています。様々な時空間データを整理し、時空間的相互作用を明確に考慮した統計モデルを構築し、時空間変動メカニズムを分析することによって、環境改善や協力促進を目指す提言を政府に対し試みるのがこの研究の目的です。現在のところ、日中の交流は密接です。私の研究を通じて日中の協力と交流に役に立てれば何よりです。

この度は、かめのり財団の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。日本に来て以来、日本人学生だけでなく、様々な国からの留学生と出会い、絆を結び、彼らから多くを学びました。このような異文化交流ができて、心から喜びを感じました。これからは、かめのり財団の奨学生として、より一層の精進を目指し努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

修了生からのことば



楊 慧敏
(ヨウ ケイビン)
同志社大学 社会学研究科
社会福祉学専攻 博士後期

かめのり財団の奨学生としての3年間を振り返ってみると、自分が恵まれた環境にいることを改めて実感しました。経済的支援だけでなく、かめのりファミリーの皆様を支えられてきました。

夏の研究交流会で、奨学生の皆さんと仲良くなって、忘れられない思い出をたくさん作りました。広島島の広島焼と厳島、鹿児島島の霧に包まれた桜島、そして北海道のマンホール探しの旅も、皆さんの研究報告や夜の飲み会とともに、かけがえのない宝物として心の奥深くにしまっています。

そして、研究進捗については、来年9月の修了を目指して博士論文の執筆に取り組んでおります。そして、修了後は日本で就職活動をしたいと考えております。これからも感謝の気持ちを忘れずに邁進していきます。

最後に、西田理事をはじめとする財団の方々から心よりお礼を申し上げます。



趙 沼振
(チョ ソジン)
東京外国語大学 総合国際学研究所
国際社会専攻 博士後期

2017年に新奨学生として、かめのり財団に採用され過ごした3年間は、大変幸せな時間でした。ピンチをチャンスに変えるために、恐れながらも自ら挑戦して出会ったかめのりファミリーに心から感謝しております。博士課程の3年間は、研究に関し精神的に追い込まれるほど辛い思いもしましたが、いつもかめのりファミリーという友達がそばにいてくれました。お互いに大変な状況にあっても、自由に相談できる雰囲気があり、心強かったです。

最後に皆様に直接ご挨拶をしたかったのですが、COVID-19の感染拡大により、全てのイベントが中止になってしまい、とても残念に思います。感謝の気持ちを伝えられず、かめのりファミリーを卒業した実感が未だにありません。それは恐らく、皆様との絆が終わりではなく、また新たな始まりでもあるということでしょう。私は日本に残り、博論を執筆している最中です。いつもご支援いただいたからこそ、最後まで頑張りたいと思います。そして、また会いましょう。



白 瑞
(ハク ズイ)
中央大学 法学研究科
民事法専攻 博士後期

今年の3月をもって、財団から卒業することになりました。この3年間、本当にありがとうございました！財団から経済的支援だけでなく、一生の宝になる貴重な人とのつながりも得ました。直接会えるのは毎年3回だけですが、奨学生の皆さん、西田先生と深い絆を結んでいて感じています。振り返ってみれば、このあたたかい、かめのりファミリーのなかで皆さんと一緒にたくさんの思い出を作りました。そして、財団の活動を通じて、社会活動している方々、たくさんの優秀なOBOGと交流ができて、大変勉強になりました。研究一筋の生活の外側で、より広い世界を見ることができました。今後もかめのりファミリーの一員として、誇りをもって学業をより一層精進していきたいと思ひます。いつか支えられる側から誰かを支える側になれると信じています。

今、世界中が大変な状況になり、新型コロナウイルスの感染拡大が一日でも早く終息することを、心よりお祈り申し上げます。

かめのり財団大学院奨学生の皆様へ

かめのり財団大学院奨学生の皆様、日本での研究生活 日常生活、いかがですか。

今年は、COVID-19のせいで、研究や普段の生活が思うに任せず、何かと心思う日々を送っておいでかと思いますが、ここにきて日本では少し落ち着きの兆しも見え、いくらか自由に動けるような状態になってきたかなと感じています。しかし皆さんは、お国やご家族のことも心配でしょう。国境をまたいで自由な往来はまだ、ままなりませんから。

このコロナウイルス感染症蔓延の中で、私は二つの大切なことを再認識しました。それは、平凡な日常がいかに大切かということと、もう一つは、上滑りではない真のグローバルの意味です。私たちのひとり一人は、世界中の人々と、世界の隅々の方々と、固く結ばれているということです。世界中を巻き込むこのような感染症は、営々と築いてきた人類の財産もあつという間に、無に帰してしまいます。たった一台の自動車さえ、作れなくなってしまいます。グローバルの意味を今一度しっかり考えてみるいい機会になったな、と思う日々です。

どんな状態に置かれても皆さんは世界の子です。自分に与えられた仕事を全うしながら、グローバルに人類のために尽くしてもらいたいと思っています。



かめのり財団大学院奨学生選考委員会
委員長 瀧川 好庸



グエン フォン バオ チャウ
一橋大学 経営管理研究科
研究者養成コース 博士後期

2017年12月。国費留学生奨学金の受給期間終了が決まり、大学の紹介で初めてかめのり奨学金のことを知りました。締切まで時間がなく完成度の高い書類を作成できる自信はなかったものの、「やらなかった後悔」はしたくないと申請したことを今でも覚えています。

採用が決まった時も、どんなメンバーがいるのか、仲良くできるのかと不安がよぎりました。ですが授与式で多くの先輩に話しかけられ、その不安も少しずつ消えていきました。研修交流会やかめのりフォーラムで会うたびに思い出が増え、振り返ると2年前の「終わり」はかめのりファミリーの「始まり」に繋がっていたのだと気づきました。

時はあつという間に過ぎ、新奨学生だった私も修了生になりました。この終わりも始まりにつながるのだと思うと、今度は不安ではなく期待で胸が膨らみます。今年度の新奨学生や修了生にも良い始まりが訪れると願うとともに、これまでの2年間支えてくれたかめのりファミリーに感謝いたします。

第14回かめのり賞 募集案内

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰します。

[かめのり大賞]

「草の根部門」、「人材育成部門」の部門毎に正賞として記念の楯および副賞として100万円の活動奨励金を贈呈

[かめのりさきがけ賞]

正賞の記念の楯および副賞として100万円の活動奨励金を贈呈

応募締切は、2020年9月30日(水)必着です。

多くの方からの応募をお待ちしております。



第13回かめのり賞表彰式の様子

編集後記

今般の新型コロナウイルス感染症流行状況を鑑み、2020年2月、3月に実施予定だった「かめのりカレッジ」および「日本高校生短期訪中事業」は中止に、「奨学生証書授与式」は延期となりました。また今年度の「にほんご人フォーラム」は来年に延期し、その他の中高生の交流プログラムも年度内の開催が可能かどうか検討を続けています。事業の開催状況につきましては、随時、財団ホームページでお知らせいたします。

この制限のある状況下においても変わらず研究を続ける大学院奨学生への支援、そして国内の基盤支援事業「かめのり賞」の募集は、これまで通り行います。今こそ必要とされる支援活動を、実現可能な在り方を模索しながら続けてまいりたいと思います。

4月より財団事務局に奥村、谷本の2名が新たに加わりました。どうぞよろしくお願いたします。

(谷本)

かめのり賞 募集概要

応募の対象

- ①NPO(非営利団体)、ボランティアグループ、個人であること
- ②日本とアジア・オセアニアの懸け橋となる活動を目的としていること
- ③過去、かめのり賞の顕彰を受けていないこと

選考基準

次の点を総合的に評価します。

- ・活動内容とこれまでの活動における貢献度、他団体との有機的な連携や協働
- ・今後の活動への期待と将来の活動への可能性
- ・活動内容における独自性・先駆性

さらに、特に次の2点について焦点をあてている場合は加算要素となります。

- ・アジアの国、地域、人々を中心とした活動展開
- ・若い世代を中心とした相互交流や人材育成の活動

詳しい募集要項、応募用紙はホームページからダウンロードできます。

第14回かめのり賞募集要項

<https://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>

かめのり賞 で 検索



今後の予定

9月 かめのり賞募集締切

9月 大学院留学アジア奨学生研修

発行人 / 西田 浩子

編集 / 谷本 知子

デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)

印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-5 ベルビュー麹町1階

TEL : 03-3234-1694

FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp

URL : <https://www.kamenori.jp/>